

〇〇活用(〇〇) 取組事例

- ・工事・取組の概要等
- ・〇〇を使用して、〇〇を〇〇化し、〇〇を〇〇することを期待した。
結果、〇〇が〇〇程度向上した。(計画:〇〇人・日→結果:〇〇人・日)
- ・取組によって得られた副次的効果・今後の展望等

- 工事情報 -

- ◆ 工事名:
- ◆ 発注者:
- ◆ 受注者:
- ◆ 工事価格: 円(税込)
- ◆ 主な工事内容:

効果

定量的な削減効果を記載

- ・日当たり施工量が〇%増加
- ・全体〇日間の工期に対して〇日の短縮が
図られた
- ・全体〇人の作業に対して〇人削減できた

施工の様子の写真など

〇〇施工の様子

活用技術の写真など

〇〇システムの操作画面

② 施工データ活用(ICT施工Stage II) 取組事例

参考

- 施工計画段階において、協議会5現場の機械編成(台数や能力)や運行経路に関する情報を共有し、施工シミュレーションを行うことで、複数現場のダンプトラックの滞留予測や運搬作業量(日当たり施工量)、所要日数を「見える化」。離合困難箇所の滞留を考慮し、**日当たりのダンプ台数を各現場調整(台数減少)**することで、**滞留の少ない最適な運搬台数に見直し(810m³/日→1008m³/日に増)**。
- 施工段階でシミュレーションを行うことで、問題発生時のボトルネックが早期に把握でき、施工計画を継続的に見直すことにつながる。

- 工事情報 -

- ◆ 工事名: ○○工事
- ◆ 発注者: ○○事務所
- ◆ 受注者: 株式会社○○
- ◆ 工事価格: ○○,000,000円(税込)
- ◆ 主な工事内容: 工事延長 L= ○m
 - 掘削 V ≒ ○m³
 - 路体盛土工 V ≒ ○m³
 - V ≒ ○m³

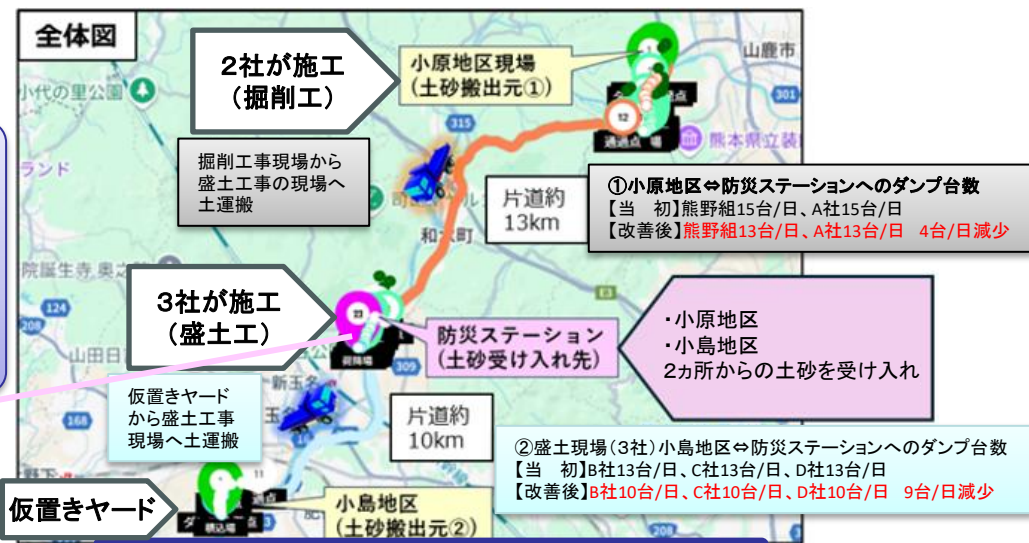
効果

※対象となる土工: 67,580m³

- ・施工計画段階からのシミュレーションにより、運搬台数を最適化
- ・運搬の作業量を24%増加(810m³→1,008m³/日)
- ・**15日間の工程を短縮(82日→67日)**
- ・運搬等に係る作業員を省人化(**6724人→4623人**)
(述べ**2101人削減**) ※5現場での合計



運搬シミュレーション結果(ダンプ運搬の滞留状況の見える化)



日当たりの運搬台数の見直し